

派遣現職教員の活動の幅を広げるハンズオン素材とその活動展開モデルの開発

鳴門教育大学教員教育国際協力センター

服部 勝憲

1. 事業の目的・方法

まず、派遣現職教員等により開発・活用されたハンズオン素材を収集し、評価・改良を加える。次に、収集したハンズオン素材を活用した活動展開モデルも合わせて開発し、今後の派遣隊員が任国で活用できるように Web 上に公開する。これらを通して派遣現職教員の活動実践を支える基盤を構築することを目的とする。

方法としては第1に、教育関連の職種に就いている隊員を対象とした、ハンズオン素材に関するニーズ調査を実施し、求められるハンズオン素材の特徴について明らかにする。第2に、隊員が開発したハンズオン素材を収集し、評価・改良を加える。第3に、収集したハンズオン素材を途上国で活用し、さらなる改良と活動展開モデルを開発する。第4に、成果を Web 上に公開するなど隊員に対する支援体制の充実を図る。

2. 今年度の活動・成果

- (1)教育関連の職種(小学校教諭, 青少年活動, 環境教育など)に就いている隊員及び現職派遣隊員 ML 登録の OB/OG 隊員を対象とした, 教材開発状況とニーズ調査を実施した。隊員が活動の中で開発した教材の対象学年や教科などに関して探るとともに, 教材を開発するにあたりどのような困難を抱えているのか, そして求められる教材の特徴などについて検討した。本事業の目指すところである, 生徒が体験的に学習することが出来る教材やその上で理解を促すような教材が求められていることが明らかになった。
- (2)隊員が実際に任地での活動において開発・活用したハンズオン素材を収集し, ニーズ調査の結果も踏まえつつ評価・改良を加えた。現時点で 42 件のハンズオン素材が集まっている。教科領域的には, 算数・数学, 理科, 音楽, 図画工作, 学年段階的には就学前から高等学校段階まで, 言語的には日本語のものを中心に, 英語, 西語, 仏語のものまで非常に多岐にわたるハンズオン素材を集約した。現地でも手に入れやすいペットボトルやアルミ缶などを用いて容易に作成することのできる汎用性の高いものも集まっている。
- (3)途上国でのハンズオン素材活用と実践展開モデル開発のための計画を策定した。1月下旬にタンザニア(ダルエスサラーム, ムトワラ), 2月中旬にバングラデシュ(カリャコイル, カジプール, チッタゴン, コックスバザール)において収集したハンズオン素材の一部を活用した授業実践を展開し, 活動展開モデルの開発を行う。

3. 最終成果物に向けた進捗状況

- (1)収集したハンズオン素材を, 隊員にとって即時的に利用可能な活動展開モデルへと昇華させるための授業実践に向け, タンザニア, バングラデシュの JICA 現地事務所及び現地隊員との協議が進んでいる。それぞれ1月, 2月に渡航し, 現地ですべて実際に活用することで, さらなる改良と活動展開モデルの完成を目指す。
- (2)海外渡航調査と並行して2月には, 集約したハンズオン素材及び活動展開モデルを「国際協カイニシアティブ」ライブラリへ登録するとともに, 現職派遣隊員 ML 等による周知を経て, 派遣隊員への支援体制の充実を図る。